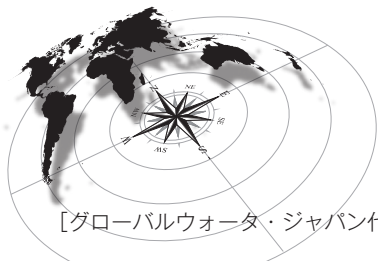




グローバル・ウォーター・ナビ ■■■■■■■■■■ 83

「第4回アジア・太平洋水サミット」熊本で開催



〔グローバルウォーター・ジャパン代表 国連環境アドバイザー〕

吉村 和就



令和4年4月23、24日の両日、熊本市・熊本城ホールにアジア太平洋地域から、30の国・地域的首脳級および政府関係者、水の関係者が約3000名集い、「第4回アジア・太平洋水サミット」が盛大に開催された。テーマは「持続可能な発展のための水 ～実践と継承～」。

SDGs（国連の掲げる持続可能な開発目標）の17項目のあらゆる目標達成に関わる水問題の解決に向けて、議論が交わされた。開会式には、天皇皇后両陛下がオンラインで出席され、天皇陛下が、お言葉を述べられるとともに記念講演にご登壇された。岸田文雄首相をはじめ、ツバル、カンボジア、ラオス、ウズベキスタンの首脳級はメインホールに参会し、首脳級会合では「熊本宣言」を採択。基調演説に立った岸田首相は、質の高い社会の実現に向けた認識と行動を共有し、今後の日本の政策として「熊本水イニシアティブ」の立ち上げを表明した。

1. 開会式……天皇陛下のお言葉

開会式には、アジア・太平洋地域・国から首脳級を含め約700名が参集したほか、天皇皇后両陛下がオンラインで出席された。主催者であるアジア太平洋水フォーラムの会長（水サミット合同実行委

員長）を務める森喜朗元首相の開会挨拶に続き、天皇陛下が英語でお言葉を述べられた。筆者の心に残った天皇陛下のお言葉を次に紹介する。

「水は、地球上のあらゆる生命の源であり、多くの恵みを与えてくれる一方で、時には洪水などで災害をもたらす脅威となります。また水問題は、貧困、教育、ジェンダーなど、持続可能な目標（SDGs）の他の課題とも密接に関連した問題として捉えられます」

「今回のサミットでは、各国首脳級、さらには国際機関、政府機関、NGO、各分野の専門家など様々な人々が集い議論し、叢智を結集し

て具体的な解決策を探り行動に移すことが期待されています」

「来年には国連で46年ぶりに水問題を中心に議論する会議が開催されます。最後に今回のサミットが大きな成果を挙げ、アジア太平洋地域、さらには世界の水問題の解決、そして、水を通じた全世界の人々の幸福と世界の平和に向け大きな一歩となることを心から願い、私の挨拶といたします」

（お言葉の全文および記念講演の詳細は宮内庁のHPで公開されていますので、そちらでご覧ください）

2. 岸田首相の挨拶……水を治める者は国を治める

カンボジアのフン・セン首相、ツバルのカウセア・ナタノ首相、ラオスのパンカム・ヴィパヴァン首相、ウズベキスタンのサルドル副首相など多くの首脳級が参会する中、開催国の岸田首相は「水を治める者は国を治める。水を治めることは地球規模の社会課題を解決することに大きく貢献する」と、水問題解決における政治のリーダーシップの重要性を強調。例えば「質の高い社会構築」をキーワー



▲天皇皇后両陛下

ドの一つに挙げ、「レジリエントで持続可能な開発を促進するために、水問題を牽引する責務があり、開催国の首相として、行動をより一層加速する使命を強く感じている」と述べ、今回の水サミットを「大きく踏み出す好機」にしたいと意欲を見せた。国連のアントニオ・グテーレス事務総長はビデオメッセージで挨拶し、最後に開催都市を代表して大西一史熊本市長が「熊本市で水サミットを開催できることは光栄で、世界の水の未来の道筋になることを確信する」と水サミットで得られる成果に期待を寄せた。

3. 首脳級会合……熊本宣言採択

会合には対面およびオンライン出席を含め約20カ国の首脳らが参加。熊本宣言では、①コロナ禍と回復における水問題からのアプローチ、②質の高い社会への変革、③従来手法からの取り組みの加速——などを主要項目として、各国・地域のリーダーが取り組む方向性について合意した。また「質の高い社会」を実現させるためには、ガバナンス、ファイナンス、科学技術の三分野の重要性を強調した。

4. 課題解決へ熊本水イニシアティブ……岸田首相が表明

岸田首相は基調演説でアジア太平洋地域の水問題解決に貢献する支援の仕組み「熊本水イニシアティブ」を宣言、5年間で5000億円の投資を行うことを表明した。具体的には、ハード・ソフト両面からデジタル化など最新技術を活かし、気候変動への適応策・緩和策への取り組み支援、基礎的な生活環境改善の支援を通じ、質の高い社会

インフラ整備の構築に貢献することを目指すと言明した。

- 1) 第一のアプローチ……気候変動適応策・緩和策の取り組み
 - ・アジア太平洋地域に存在する3万基以上あるダムに、我が国の有する技術（治水・利水能力の向上、水力エネルギーの増強など）で気候変動の緩和策
 - ・農業用排水施設の整備、水田の雨水貯留機能の活用
 - ・水管理に必要な観測データの蓄積・収集や将来予測の促進
 - ・水害リスク評価や整備・運用の見える化支援
 - ・水管理人材の育成
- 2) 第二のアプローチ……基礎的な生活環境の改善への取り組み
 - ・公共用水域の水環境の改善支援
 - ・水道施設の施設拡大・更新時への支援
 - ・水道事業体の能力強化（IoT技術の活用、民間企業の参入促進、漏水探知能力の向上、無収水量削減による収支改善、料金徴収システムの拡充など）
 - ・汚水管理の促進
 - ・我が国の下水道施設整備技術の活用により水環境改善やバイオマス発電に貢献
 - ・下水道整備による浸水被害の軽

減

- ・インフラ管理・運用のデジタル化や最新技術の導入支援

5. 専門家による分科会討議

九つの分科会では熱心な意見交換と討議が行われた。①水と災害/気候変動、②水供給、③水源から海までの水と環境、④水と貧困/ジェンダー、⑤水と衛生/汚水管理、⑥ユースによるリーダーシップ・イノベーション、⑦水と食料、⑧水と文化と平和、⑨地下水を含む健全な水循環——などであり、各々の分科会の成果は統合セッションにおいて、科学技術面、ファイナンス面、ガバナンス面の視点から議長サマリーとして取りまとめられた。

筆者が出席した統合セッション「科学技術」では、国立研究開発法人土木研究所/水災害・リスクマネジメント国際センターの小池俊雄センター長による司会で、NASAアジア担当のガービィ・マッキントッシュ代表、IPCC執筆メンバーである国立研究開発法人海洋研究開発機構/環境変動予測研究センターの河宮未知生センター長、国土交通省水管理・国土保全局の井上智夫局長が登壇、オ



▲岸田首相



▲統合セッション

▶パネリストらとのショット(左からPUB・マイケル氏、筆者、土研・小池氏、国交省・井上氏)



ンライン参加者(WMO(世界気象機関)やADB(アジア開発銀行))も含め、熱心にSDGsにもとづくレジリエンスな社会構築の道筋が議論された。

セッション終了後には、聴講していたシンガポール公益企業庁(PUB)のマイケル・トゥ産業技術連携促進部長と面談、パネリストと意見交換を行った。PUBはアジア最大の「水研究開発センター」の設立を予定しており、日本企業の積極的な参加を求めている。

6. ハイレベルステートメント

各国の大統領や首脳がオンラインで参加、国家元首の生の声が会場で放映された。フィリピン、オーストラリア、サモア、トンガ王国、フィジー、パラオ、アルメニア、ブータン王国、ベトナム、インドネシア、タジキスタン、スリランカ、キルギス、トルクメニスタン、

ナウル共和国などであり、多くは先進国からの温暖化対策についての技術的な支援や財政支援の要望が多かった。興味深かったのはタジキスタン共和国のラフモン大統領の演説であった。いわく「世界の人々はツバルやキリバスのような島嶼国が、温暖化による海面上昇により沈む国と理解しているが、わが国には氷河が8000以上あり、すでに1000以上が温暖化により消滅し、飲料水や農業に大きな影響を与えている。世界の人々は氷河を有する山岳国にも関心を持つべきである」と。

7. 公式サイドイベント (シンポジウムや展示会)

15年ぶりに日本で開催された水サミット、過去の水サミットと大きく異なったのは、特に若い人(ユース)や地域に密着したイベントが多かったことである。「熊本の

小学生から世界に発信! ~海洋ごみをゼロにするために~」「次世代へ継承 世界に熊本の魅力を発信 ~熊本の地下水」、ユース水フォーラム・九州で熊本の高校生が作成した動画やこれまでの活動紹介など、ユースによる持続可能性の見える化に関する試みが披露され、多くの参加者で盛況であった。

さいごに

2016年の熊本地震や2020年の豪雨災害から、見事に復興された熊本で開催された第4回アジア・太平洋水サミットの成果である「熊本宣言」や日本政府が提言した「熊本水イニシアティブ」は、2023年3月に国連本部で開催される「国連2023水会議」で報告される。今回の成果がアジア太平洋地域のみならず、全世界の水問題解決における礎の一つになることを期待したい。【写真はすべて筆者撮影】



▲タジキスタン共和国 ラフモン大統領



▲高校生によるサイドイベント